



読書の秋！「秋田県読書フェスタ」開催（10月25日～11月3日）

深まる秋の気配とともに、「秋田県読書フェスタ」がスタートします。今年度も、期間中（その前後も含む）、県内で行われる読書イベントを一覧にしたパンフレットを、市町村図書館及び公民館図書室、県社会教育施設等に設置しますのでご活用ください。また、教育庁生涯学習課ホームページ「お知らせ」にも掲載しています。

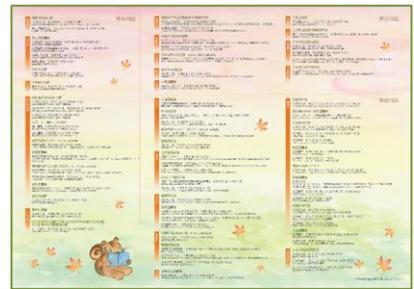
この秋は読書イベントが盛りだくさん

今年度は、読書フェスタの期間中、22市町村で読書イベントを開催します。また、県は、今年7月「県民読書の日」（11月1日）を制定し、その記念事業として「読書のつどい 2014 秋」を秋田テルサで行います。さらに、国民文化祭県民参加事業として、読書推進活動委員会の「本と一緒に～読書は人生の羅針盤～」のイベントもあります。

この秋はいつもより長い期間、県内のあちこちで、読書の楽しさを体験することができます。

パンフレットは秋田公立美大生が制作

読書フェスタの期間中、県内で行われる読書イベントを一覧できるパンフレット。今年度は、秋田公立美術大学2年生の虹川彩花さん、後藤亜沙美さん、高山葉さんの3人が、コミュニケーションデザイン専攻の坂本准教授の指導の下、制作を担当しました。本を読むかわいらしい動物たちのイラストが柔らかな色使いで描かれ、優しい雰囲気仕上がりました。



今年の読書イベントをまとめたパンフレットの表面(上)と裏面(下)

平成26年度

読書ボランティア等
スキルアップ研修会

県は「読書ボランティア等スキルアップ研修会」を県内6か所で実施しました。今年度の講師は、宮城県で家庭文庫「まつお文庫」を主宰する松尾福子さん。松尾さんは、37年前から自宅の茶の間18畳と廊下に7,952冊の子どもの本を並べて地域の人たちに開放し、おはなし会を開いたり本を貸出したりしています。大事にしているのは、人の生の声で詩やわらべ唄、昔話、絵本を子どもたちに届けることだそうです。

研修会では、「読み聞かせる声の心地よさが子



絵本のすばらしさを語る松尾さん

どもに安心感や信頼感を与える」「絵本の中では絵も言葉となって語りかける」「上手に読むことよりも何を読むかが大事」「読み手は絵(本)をよく見せる額縁になること」などが話されました。

また、松尾さんが、様々なジャンルの絵本や詩集を手にし、読み聞かせを交えながら、それぞれの作品の美しさや子どもにも与える効果について紹介すると、参加者たちは身を乗り出して聞き入っていました。



高校生のビブリオバトル東北大会

大館国際情報学院高等学校3年

菅原さん 準チャンプ本獲得

9月7日(日)、仙台市で行われた全国高等学校ビブリオバトル2014東北大会(主催・活字文化推進会議 主管・読売新聞社)に、秋田県からは大館国際情報学院高等学校3年生の菅原和紘さんが出場。『外科室』(作・泉鏡花)を紹介し、予選を勝ち抜き、決勝戦で、見事、準チャンプ本に選ばれました。

※菅原さんも参加する、高校生によるビブリオバトル県北大会は、10月4日午後1時30分より大館市立中央図書館で開催



平成26年度子どもの読書活動優秀実践校
文部科学大臣表彰

仙北市立角館中学校



朝読書の時間の教師による読み聞かせ

＜角中生必読図書の制定＞

各学級に必読図書を入れた学級文庫を設置し、約3か月ごとに入れ替えています。各学年のホールに必読図書を備え付け、いつでも手に取って見ることができるようにしています。

＜読書dayの実施＞

毎月1回、学級ごとに学校図書館で朝の読書を行う日を決めています。なかなか図書室に足の向かない生徒も、この機会に学校図書館を利用し、本を借り

ています。毎回変わる図書館の特集コーナーの企画を楽しみにしている生徒もいます。

＜読書番組の発信＞

昼の校内放送を活用して、読み聞かせ、先生方の読書体験のインタビュー、おすすめの本などの紹介を行っています。

＜読書集会の開催＞

年間4回、生徒会（図書委員会）が主催して読書集会を行っています。図書室利用のオリエンテーション、図書委員による

読み聞かせコンサートなどを行います。また、ボランティアの方々による読み聞かせも実施しています。

＜図書通信の発行＞

生徒会（図書委員会）による生徒及び保護者向け「図書通信オアシス」を発行しています。また、図書担当教師が職員向けの通信も発行し、図書館情報や読書活動の状況を全職員で共通理解するようにしています。



子どもと本をつなぐ大人の役割を再確認

東日本地区国語問題研究協議会第3部会

8月7日、8日、秋田市で、平成26年度東日本地区国語問題研究協議会が開催され、8日の第3部会では、幼少期からの読書活動の推進をテーマに、実践発表と話し合いが行われました。

まず、羽後町立図書館の原田真裕美館長が、「読書好きな子どもを育てる図書館～子どもと本をつなぐ大人たち～」について発表しました。家読推進プロジェクト、子ども司書推進プロジェクト、学校、地域コミュニティFMと連携した取組をたくさんの写真を用いて紹介しました。「家読」「子ども司書制度」を取り入れたことで、子どもたちは自分のためだけでなく、友達や家族と楽しさを共有するために読書するようになった、司書として活動する中で堂々と意見を言えるようになったなど、それぞれの成長が見られたことが報告されました。

また、「小さな朗読コンサート」の再現場面で、原田館長が『ハナミズキのみち』（作・浅沼キミ子 絵・黒井健）を羽柴よしえさんの音楽に合わせて朗読すると、感に堪えず涙する人たちの姿が会場のあちこちで見受けられました。

続いて、潟上市立天王小学校に学校サポーターとして勤務する間杉素子さんが、「子どもの知的好奇心を



発表者たち(左から)潟上市の間杉さん、羽後町の鈴木さん、原田さん満たし、読書と学習を支える学校図書館づくり～潟上市における学校図書館支援を通して～」と題して発表しました。潟上市では、間杉さんのような教員免許を有する学校サポーターを3名、図書支援員を3名置くことで、全ての小・中学校の図書館の環境整備や読書支援を担当する職員の配置がなされています。

間杉さんは、環境整備や蔵書整理によって劇的に変わった学校図書館の様子、工夫を凝らした読み聞かせ等の読書支援、資料の準備と授業参加による学習支援、ボランティアの立ち上げや共同企画、ブックスタートにおける役割などについて発表しました。そして、「これからも子どもと学校図書館、子どもと本、学校図書館と公共図書館、家庭、地域を結び付ける存在となれるよう努力したい。」と締めくくりました。



「打って出る司書」（8月末日現在）

延べ139館室を訪問

地区	県北	県央	県南	合計
訪問館室数	47	50	42	139

訪問形態	巡回訪問	資料の搬送に伴う訪問	出前研修	運営課題解決サポート
訪問館室数	71	43	22	3

9月から、県立図書館の専門的な知識と経験を有する「打って出る司書」が、後期の訪問を始めています。前回訪問で話題となった取組の進捗状況を確認したり、新しい図書館情報を提供したりしています。また、出前研修は随時受付けておりますのでご活用ください。

秋田県教育庁生涯学習課
生涯学習・読書推進班



URL <http://www.pref.akita.lg.jp/syogaku/>